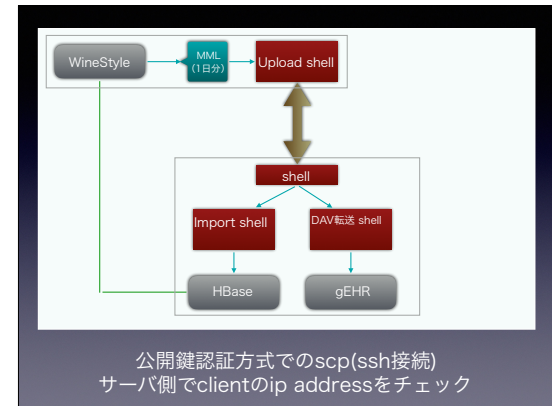


# 電子カルテと千年カルテ センターの接続 クリニックからダイレクト

キワム 電脳工務店  
高橋 究

## 希望

- ・ クリニックなのでコストを低減したい
- ・ 通信のためのハードウェアを必要としないセキュアな通信



## MML export.sh

```
TODAY=`date +%Y%m%d`  
cd /xxxxxx/xxxxxxx/tmp/mmlExportData  
tar cfvz mml_${TODAY}.tar.gz *.xml *.data  
scp -p -P (portnum) mml_${TODAY}.tar.gz xxxxx@***.***.***./opt/data/  
1.2.840.1114319.5.xxxx.xxxx
```

## MML 3まで

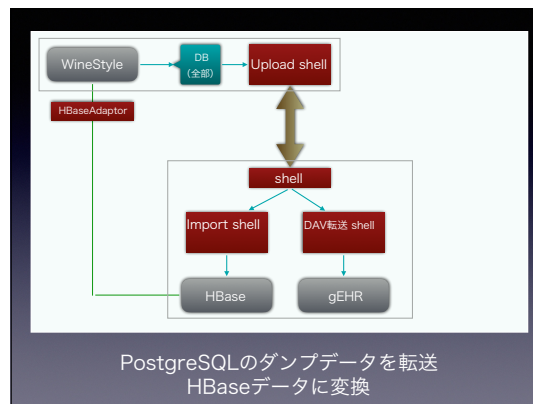
- ・ 対外へのMMLデータを送ることがなかった
- ・ 施設内での利用、ノートPCとサーバでのDBの整合、差分の診療データの移動にMMLを利用
- ・ 他の電子カルテからのデータの移行に使用

## MML4へ

- ・ 処方モジュールを使用
- ・ 3ではCLAIMを使用していた
- ・ ちょっとしたこと

## オプション

- ・ クリニック医療データベースの院外保存
- ・ 今回はHBaseを対象とする実験



## 仕組み

- ・ SQLデータベースではないHBase
- ・ WineStyle側からはDB Adaptorの一つと認識
- ・ WineStyle側からはSQL-DBとして扱う

## 問題点とメリット

- ・ HBaseAdaptorを介しての操作は遅い
- ・ 電子カルテデータの1.5次利用には有利
  - ・ 診療科別オーダの抽出など
- ・ 院外保存データによる安全の担保